

三井のリフォーム住生活研究所長 西田 恭子

## パッシブデザイン「通風・採光・断熱」

もう一〇年以上前、「光・風・緑での住宅リフォームづくり」と題してセミナーを行った。

当時は戸建住宅でも全館空調真っ盛りであったが、リフォームでこれを実施するととなると、膨大な費用がかかり断念する方が多かった。

「全館空調がすばらしい」と依頼主は目を輝かされるのだが、家の断熱は念頭がないままでは費用の無駄使いになる。そこで断熱性能まで組み込むとさらに費用は上がり、リフォーム提案は実現しないままとなっていた。

そこで自然の力をもう一度見直し、住宅に取り入れることをテーマとするパッシブデザインセミナーを行ったのだが、結果は惨憺たるものだった。

参加者は集まらず、来られた方は一般住宅の改装ではなく、自然エネルギーを専門的に考えて研究されている方々となり、住宅リフォームの即効的浸透を目指しての、今回の主催者側の思いとは大きくはずれてしまった。

あれから月日が経ち、い

まや時代は「スマートリフォーム」だ。そしてその中の一つとしてパッシブデザインが大きく取り上げられている。通風・採光・断熱そして動線を見直して、室内環境を整える。既存住宅にリフォームで基本性能を上げること、はじめて快適空間が生まれるのだ。

九月に当社では「スマートリフォーム」をテーマとした、マンションリフォームモデルを開設した。先日数名のリフォームプランナー達と内覧会で確認してきた。

スマートリフォームやパッシブデザインといってもお客様に伝わるのだろうかとか心配していた者たちも、これならわかりやすいと太鼓判を押していた。スケルトンリフォームでの室内は、玄関からの冷気を室内に入れ込まないようにセカンドドアを設け、奥まった居室は通風建具や穴あきレ

ンガ、調湿性のある塗り壁でのマイナスイオンを補うだけでなく、そのデザイン性で快適さを向上させている。

一〇年前には、時代的に早すぎるテーマとされた苦い経験も、決して道筋とし

ては間違っていないかったと感慨深いものがあった。

最近、防災リフォームセミナーも企画し行ったが、これは大いに人々の関心を呼んだ。

東日本大震災以降に、誰もが気に掛けてはいるものの、なかなか手付かずになっている命題だからであろう。新しい企画は常に時代とマッチしたものでなければならぬ。それと同時に、ほんの少し先を見据えての設定も大事なのではないだろうか。

そういう私もセミナー後、防災グッズはどこにしまったらどうかと、慌てて家の中を見回した。喉元過ぎればとていような問題ではないはずなのに、防災グッズ探しとは自分でも呆れてしまったが、防災に関することは、なんども振り返ることが大切なのだと感じた。

各所でセミナーが行われ、そこで話す場が与えられている者としては、住宅リフォームの喚起ばかりではなく、暮らしの一步先を見据えることと、一歩振り返ることを示唆する役目を担っていると再認識した。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。(社)日本建築家協会正会員。